

第10回定例委員会会議録

臨時委員長) 日程第1 開会宣言

臨時委員長) 日程第2 会議成立の宣言

臨時委員長) 日程第3 会議録署名委員の指名(浅井委員)

臨時委員長) それでは、日程第4の審議に入ります。

選挙第1号「芦屋市教育委員会委員長の選挙及び委員長職務代理者の指定について」を議題といたします。補足説明を求めます。

管理課長) <議案資料に基づき概略説明>

臨時委員長) 説明が終わりました。では、委員長の互選につきましては、指名推薦といたしたいと思いますが、御異議ございませんか。

<異議なしの声>

臨時委員長) 御異議なしと認め、指名推薦と決定いたします。

御推薦はございますか。

教育長) 小石委員に委員長の就任をお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

臨時委員長) ただいま私に推薦がございましたが、私が委員長とすることに御異議ございませんか。

<異議なしの声>

臨時委員長) 御異議がないということで、僭越でございますけれども、私を委員長とするということで決定させていただきたいと思っております。それでは、以下の議事進行について私のほうでさせていただきます。

小石新委員長) 次は、委員長職務代理者の指定につきまして、同様に指名

推薦としたいと思いますが、御異議ございませんでしょうか。

〈異議なしの声〉

委員長) 御異議なしと認めて、指名推薦と決定いたします。御推薦はございますでしょうか。

浅井委員) 木村委員を推薦させていただきます。

委員長) 木村委員との御推薦がございましたが、木村委員を委員長職務代理者とすることに御異議ございませんでしょうか。

〈異議なしの声〉

委員長) 御異議なしと認めます。よって、木村委員を委員長職務代理者と決定いたしました。よろしくお願いいたします。

管理部長) それでは、委員長から御就任の挨拶、それから職務代理者からも一言御挨拶いただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

委員長) このたび委員長に就任させていただくということになりました。前委員長の宇佐見さんは大変機動力があるし、現場のことも詳しく、顔も広くて、頼りになるかたでしたが、私自身はそういう能力が全然ありません。ただ、教育委員の会議というのは、5人の合議制ということになっておりますので、私に特別の権限があるというわけでもありませんので、御協力を得ながらスムーズに、あるいは有意義に、創造的に進めさせていただけたらと思っております。

事務局の方々とは信頼関係をこれからも持ちながら、一方で余り馴れ合いになると、またこれも不信感を持たれますので、基本的には信頼感の上に立って、そして我々も緊張感を持って取り組んでいきたいと考えております。どうぞいろいろと御指

導賜りますよう、よろしくお願いいたします。

管理部長) それでは、木村委員お願いいたします。

木村委員) 職務代理というのは、委員長が何か執務できないときに基本的に代わりになるという立場だと思っております。小石委員長がしっかりとやっていただけることは、これは万全の信頼を持っておりますので、その点については何も特に感慨はございませんが、今年1年しっかりと勉強させていただきたいと思っております。また皆様方から御指導、御鞭撻いただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

管理部長) どうもありがとうございます。

それでは、引き続き、日程の議事進行をお願いします。

委員長) それでは、日程第5の審議に入ります。

報告第7号「平成25年度全国学力・学習状況調査の結果について」を議題といたします。提案説明を求めます。

学校教育課長) 〈議案資料に基づき概略説明〉

委員長) 説明が終わりました。質疑はございませんか。

浅井委員) 今回、小学校においては極めて良好が国語A、B、そして算数B、中学校でも、昨年度は良好ばかりでしたけれど、数学のBが極めて良好になって、小学校でも随分飛躍的に伸びていますね。ここが素直によかったという思いがいたします。教育の成果が出ていると思いました。

ただ、課題が幾つかあるということで、3ページのエの辞書等を使って調べる機会をふやさなければならないというところ です。「課題を決め、それに応じた情報の収集方法を考えること」、この点に課題があるということで、辞書を余り使いこな

していないのではないかというのは、かねてから思っていました。その辺が課題になっているのだと思います。

そして、5ページの無回答率ですが、全国に比べて芦屋市が総じて低いというところは、とても評価できると思いました。また、調査結果の67番で「国語の回答を文章で書く問題について、最後まで回答を書こうと努力した」という項目がとても高くなっていますね。これがとても大事なことであると思っています。学習の意欲というか、諦めない気持ちというのが随分出ていることがよい点と感じました。

そして、国語については、漢字を書くことよりも読みを学ぶことのほうが難しいことかもしれません。本を読んでも漢字の読み方がわからないと調べにくいけれども、書き方は辞書ですぐに調べることもできますし、今でしたら携帯電話でも漢字が割りと安易に確認できたりしますね。そのことで、読みを指導するという点について、今後何かポイントがあるのではないかと思います。

授業で学習したことが役に立つと思うということについて、特に小学校から中学校で余計に低下しています。小学校では役に立つと思っても、中学校で現実に直面して、こういうことをやっていてどうなのだという時期が来るのかなとも思いますね。

委員長) 何かコメントはございますか。

学校教育課長) やはりこれをしっかりと教科の先生が読んでほしいということが一番思います。ですから、逆に現場から反論があるのでしたらどんどん反論してくれというような思いもあります。

数学の問題を見て、確かにこの問題は余り取り扱わないなどか、自分の経験上やってきてなかったなというような問題も全国の調査の中であります。ですから、子どもたちがどの問題ができなかったのか、どの問題につまづいたのか、どの問題に着手できなかったのかということは、各学校の先生方がしっかりこれを見て、そしてその後の授業に生かすということが課題だと思っています。

委員長) ほかに何か、御意見ございますか。

松本委員) 自分にはよいところがあるというところについて、全国でも低いですが、これはこういうものですか。日本人に特有な面なのか、謙虚なのでしょうか。

委員長) 自尊心が低いということはずっと言われていますよね。いかがでしょうか。

学校教育課長) 経年をとっても大体これくらいです。ですから、思春期になってきたときに、自分の姿が本当に自分で自分のことを好きと言えるのか、そこは非常に悩んだりする時期ではないかと思えます。ですから、逆に、その時期に自分自身に自信を持ってやれている子どもはすばらしいなと思えます。

よいところがあるというところや、それからその上の「ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがある」というところの内容を伸ばしていくためには、どういうことをしたらいいだろうかということで、やはり子どものよいところや頑張ったところを褒めてあげる、評価してあげる。そうすれば子どもは、最後までやってよかったなと感ずることが出来ます。そして、自分もやればできるんだという自信が生まれてくるので

はないかと思います。ここを伸ばすためには、いいところをどんどん褒めてあげて、子どもの力を引き出してあげることが、周りの大人の役割ではないかと思います。

木村委員) この自己肯定感が非常に低いというのは、国際的に見て、日本は顕著ですよ。ヨーロッパやアメリカはとても高いですけども、日本はここがとても低いです。

ただ、やはり低いのはよくないと思います。私は子どもの非行の事件も何十件とやってきましたけれど、問題を起こす子は自己肯定感が非常に低いです。自己評価が低いということが非行の原因の1つ、重要な1つになっているということは間違いないと思います。やはりこのところをどのように伸ばしてあげるのかというところが、今の日本人にとって非常に重要になっていると思います。芦屋は全国平均から比べるとまだいいですし、過去からの伸びを見ると大分改善されてきているので、それはいいのですが、中学校レベルで、自分によいところがあると思うのは4人に1人しかいないという状況というのは、国際的に見たら異常な状況だと思います。

書かれているように、子どものよいところを認めて褒めてあげる、伸ばすということもありますが、もう一つ、具現していききたいのは、自分によいところがあると思えるというのは、他人にもいいところがあると思える気持ちの裏返しですね。だから、他者を評価して、あの子はこういうところがすばらしいと思える人というのは、多分自分に対しても思えるのですね。

これは何かと言うと、違いを認める教育というか、多様性というか、人はそれぞれ価値があって、一見悪く見える人でもど

こかにすばらしいところがあると思える気持ちになれるかどうかという問題になると思います。これはやはり人権教育の問題に関連してくると思います。そういうところは少し意識をしてほしいですね。

学校教育部長) 木村委員ご指摘の自己肯定感について、国際的に見てということですが、大阪教育大学の園田先生のお話から少し御紹介をさせていただきます。自尊感情を高めることは大事だということの基礎データとしてよく言われることですが、自分だめな人間だと思うということを中学生に対して調査した結果、アメリカは4.7%、中国が3.4%、韓国が7.9%、日本はどうかと言うと20.8%という数字が出ています。この自己肯定感が低いということ、今、木村委員がおっしゃったことから考えますと、ふだんの学級の中で、また集団的な活動の中で自分の居場所があるとか、それから集団的にお互いが認め合う関係ですね、それを常日ごろつくっていくというところをやはり意識する必要があると思います。そのところはまた学校とも確認をしていきたいと思っております。

委員長) ほかに何かございますか。

松本委員) しかし、やはり子どもは自分にいいところや頑張ったことがないと思ってしまうのではないのでしょうか。そもそも、「いるだけでいい」というような評価については、そこは家でしないといけないところだと思っています。多分、親の世代もそのようには愛されなかったというようなことがあって、その下の世代にも続いていかないのかなと、そこは課題だと思います。だから外国の人を見ると、本当に「いるだけですてき」という

ことを認める表現をとてもされるので、何かそういう新しいモデルのようなものが広まっていったらいいと常に思います。何かができないとだめだと子どもも思っているのですね。

教 育 長) よく思うのですが、親にとって子どもが生まれたとき、その子に対してうれしく思い、日々成長していく姿に感激したり、その子がいることによって周りが癒やされたり、皆が救われたりしたことがあると思います。それがだんだん大きくなっていくと、期待感が出てさまざまな思いが出てきます。しかし、一番大事なことは、その子がこの世に生まれてきてよかったと皆が祝福していくことを社会教育も含めて、やはり私たちは認識していかないとはいけません。

減点法で物を考えることは、場合によっては必要でしょう。悪いことをしたときには、いけないことはいけないとしっかりと教えていかないとはいけないと思います。しかし、加点法で物を考えていくことも必要です。加点法での物の考え方で、先生方には、子どものことについてコメントを書く欄に、この子はこんないいことがあったのですよと書いてほしい。

いろいろな人と面接して話すときに、あなたの長所は何ですかと言うと、恥じらいもあるのですが、なかなか言えないですね。しかし、お互いに認め合ったり、いいところがあるということ、またいろいろな育みの中で、そういうことを大事にしていくことが、人を大事にすることにつながり、いじめや体罰の防止に関係していく。それは総合的な教育として大事だということを教育委員会として、また教育委員としても常に持つておかなければならないと思います。今、木村委員が言われた

発言と全く同じです。そのことを教育委員会としても共通ベースとして認識し、数字として出てきたことを重く受けとめていくべきですね。単純に国より上だからいいと安直には考えてはいけないということを皆で共通認識し、対応していかなければならない数字だと思っております。

委員長) ほかにございますか。

私が一番気になるのが、一つは勉強が好きということ、それからもう一つは読書が好きということ、もちろんこれは全国より高いですし、この数字であればいいと思いますが、本当はこういうことが高くなるということが大事なわけですよ。好きだったらこれからも取り組んでいける力になるわけです。嫌々して、とりあえず点数は高いけれどという場合は、それが終わったらやめるわけですよ。ですから、長期的な視点に立てば、できるだけ勉強が楽しいと思えるようなものが大事になってくると思います。

それから、やはり気になるのは、芦屋市は読書について特に力を入れて取り組んでいるけれども、中学校は全国より低いですよ。そのあたりの取り組み方は少し考えないといけませんし、読めというだけではない、何かもっと読みたいとか、読んでおもしろいというようなことがうまく伝え切れていないのではないかと少し気になりますね。特に力を入れて取り組んでいることだけに、少し気になる数字だと思えます。

浅井委員) そうですね。「読書が『好きだ』」のところですが、平成21年からは随分伸びているのですが、残念ながら去年からは下がっているのですね。いろいろな形で読み聞かせでも随分努

力はされて、読書が好きな子どもはふえていると思うのですが、少し伸び悩んでいるという気がします。

例えば、これは覚和歌子さんという人の童話ですけれども、児童書「星つむぎの歌」というものをピッコロ劇団が舞台にするということで、ここの方からボランティアで小学生に聞いてもらえないかと相談を受けました。打出浜小学校に学校訪問に行きましたので、そこで先生に御紹介したら、2学期中にはぜひ来てもらいたいとおっしゃっていただいて、こういうことをぜひ進めていきたいと言ってくださっているのです。

私もまだ見ていないのですが、それは本をもう少し立体的に読むような形でしてくれると思うのですね。そういうことも取り入れられることは取り入れて、こういった機会があると、では原作はどのようなだろうと思ったり、おもしろそうだなというように興味を持ってもらえるような手だてがないかと考えています。

委員長) 何かコメントがございますか。

学校教育課長) やはりいろいろな仕掛けをしていかないといけないと思っています。中学生は、なかなかゆっくり本を読む時間がないと言われてはいますが、いろいろな体験をしていく中で、例えば将来時間ができたときに、ああ、あのときにこういうことを聞いたなとか、こんな本が紹介されたなといったときに、読んでみようかというところまでつながればよいと思っております。

また、やはり国語の授業を好きというところも上げていかないといけないと、中学校は、読書の取り組みが上がるというところ

ころにはなかなかつながりにくいところもありますので、そこはあわせて課題であると感じています。

委員長) 特に、これは小学校の先生の場合ですが、教科専門の形で教科を振ったときに、先生方が一番渡したくないと思っている科目は国語なのですよね。国語はやはり自分でやりたいと思われる先生が多いのです。それだけ国語は思い入れがある科目ではないかと思います。確かにいろいろなものを伝えられる可能性を持っている科目ですよね。そういう意味で言うと、中学校が低いのは寂しいと思いますね。先生がそれだけ思い入れのある科目だとしたら、もっと子どもたちも好きになってくれるといいのにと感じる感じがしますね。

木村委員) 例えば図書の推薦本400選がありますけれども、中学校の場合に、子どもたちがそういう本を読みたくなるような仕掛け的なものとはどうなっているのですか。推薦本ですよそのまま渡しているのでしょうか。

学校教育課長) それをいかに授業の中でもいろいろな形で活用できるかというところが一番のポイントにはなるかと思います。ただ、授業の中でどれだけ使われているか、それから紹介されているかということにつきましては、調査をしていないので何とも言えないのですが。

今回図書の400選の改定をするということで進めておりますけれども、やはりもう一度、この400選について、例えば改定したときに、ただ改定して出すだけではなくて、このように使ってくださいということをもっとアピールしていかないといけないとは感じております。

木 村 委 員) 私たちが本を読みたいと思うきっかけは、やはり書評とか、例えば今はおじいさんになった人が中学生のときにこの本を読んで自分の人生が変わったとか、とても感激したという、書評というレベルではないけれども、そういうものがあると、読もうかなという気持ちになるものではないでしょうか。私はそうですね。

だから400選についても、これは推薦ですよといってもその中身がわからなければ、それを読んで自分がどのように変わるのかということイメージできなければ読む気にならないけれど、それを読んで人生が変わった人がいるというものがあれば、読もうかなという気持ちになると思います。そういったアピールの仕方を少し中学校で考えられるといいのではないのでしょうか。

例えば先生方がこの本を読んでこのように感激しましたということ、芦屋市内の中学校の先生にそれぞれ書いてもらって、冊子かチラシにして生徒に渡したり、保護者でもいいですね、保護者の中でこう思った人がいるということを紹介するような形で生徒に配ると、結構読む気になるのではないのでしょうか。そういうアピールの仕方を少し考えていただいたらいいと思います。

委 員 長) いかがでしょうか、ほかに何かございますか。

またいろいろと考えて、アイデアを反映させていく必要があるだろうと思います。

他に質疑はございませんか。

無いようですので、これをもって質疑を打ち切ります。

これより採決いたします。本案は、原案どおり承認することに御異議ございませんか。

〈異議なしの声〉

御異議なしと認めます。よって本案は承認されました。

〈報告第7号採決。結果、承認（出席委員全員賛成）〉

委員長) 日程第6 閉会宣言